

# 2010 年度事業計画書 【期間】 2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日

## 1. 事業方針

2010 年度の事業計画の基本方針と、重点的に取り上げる基幹事業とその項目を提案します。

### 1-1. 2010 年度基本方針

地域に密着した中間支援組織として、地域の中で専門性のあるコーディネーターという職業を成り立たせるという CoCoT のミッションは、コミュニティの中で、具体的には松戸で、中間支援を仕事にしているかということでもあります。本格的な収益事業を取り組んで 3 年目となる 2010 年度は、その手応えをつかむ年にするため、松戸において多様な角度から事業の可能性を探ります。

今の私たちに必要なのは手段や手法を手に入れることではなく、自分たちの働ける場の現実的な開発です。既存のあてがわれたものを引き受けるのではなく、仕事を生み出していくことです。新しい公共性の創出とは、地域社会において、新しい公共性あるサービスを生み出すということです。CoCoT にとっては、新しい専門性ある仕事や雇用を作り出すということです。

今年度は、地域社会の中で仕事を作り出していくために、地域にあるニーズを見定めそれに呼応した企画を立案し、自分たちの働き方や場を積極的にあらゆる機会をとらえて、提案していきます。

また、財政面での安定を図るためには、多様な財源の掘り起こしが必要です。その一つとして、助成金・補助金による自主事業の取組を、取り入れていきます。

地域より多くの共感と支援を受けるために、組織をより地域に開かれたものとし、交流と意見交換の場を設定していきます。

### 1-2. 重点項目

基本方針に沿って、具体的に取り組む基幹事業を取り上げ、重点項目を設定します。

※以下、( )内の番号は基幹事業の番号を振っています(連番ではありません)

※実施予定の具体的な事業については、別紙「平成 22 年度 CoCoT 事業一覧」を参照ください。

#### (1) コーディネート事業

##### ① まちづくり事業のモデル化と担い手の育成

松戸における地域活性化を目的としたまちづくり事業に本格的に取り組めます。松戸駅周辺にぎやか推進協議会や地元の町会と積極的に連携し、2010、11 年の 2 年間をかけて、民間における協働の一定のモデルを作り出します。

これらの事業は、そもそも、地域住民の手で担われるべきものであることを認識し、コーディネーターの関わりと立ち位置を明確にしていきます。

また、これらのまちづくり事業のモデル化の進め方として、部分を取り出してプロジェクトを立ち上げて形にしていきます。具体的には、インフォメーションデスク事業やそれらにまつわる情報発信事業などがあります。合わせて、本来の担い手が育つためにそれに関わる人材の育成を雇用促進とボランティア養成の両面から、取り組んでいきます。

## ②事務局運営の手法の確立

昨年に引き続き、地域活性化を担うネットワーク型の組織形成を具体的に支援していく手法として位置付け、実行委員会・研究会等を設置しその事務局運営を担います。また、地域活動に取り組む町会の企画サポートや事務局運営のアドバイスなどを行います。

## ③まるごと松戸ファンドの運営

昨年に引き続き、NPOが事業性を持つための有効な支援策と位置付けます。  
昨年度行われた助成団体のヒアリングの継続と、自己評価シートを作成します。

## (3)人材育成・研修事業

### ①常勤スタッフの力量の形成

昨年度に引き続き、横断的に CoCoT のプロジェクトにかかわることで現場経験を積み、専門職としてのコーディネーターの力量形成を図ります。特に、昨年度実習型雇用で採用した新人を、基本業務をこなせるコーディネーターとして、各部署に配属できることを目指して育成します。

### ②コーディネーター研修の開催

昨年度に引き続き、CoCoT の職業的な専門性を明らかにし、社会に還元していくために、対象を広げたコーディネーター研修や研究会を開催します。

## (4)情報交換・交流連携等の事業

### ①会員交流会

会員や CoCoT に関心を持つ方の交流を図ります。

## (5)提言事業

### ①協働事業の新しい形態

JOBAN アートライン事業の事務局を松戸市と協働事業の位置づけで担います。この取り組みにより、協働提案制度の次のステージとなる協働事業の形態を松戸市に提言していきます。

## (6)公共施設等の管理運営に関する受託事業

来期も、指定管理者として、まつど市民活動サポートセンターの管理運営を受託するために、応募とその準備を行います。

## 2. 財政と組織

---

### 2-1. 財政状況

2010年度のCoCoTの事業収入予算は、76,113千円（前年対比185%）を計上しました。2009年度とは異なり予算化した事業は内定しています。

今期より、会員の入会金及び年会費を大幅に値下げして、会員数の拡大を図ります。

第5期となる2010年度は、過去の実績を積極的に広報し、多様な財源の掘り起こしを目指します。

2009年度に採用した実習型雇用制度の研修期間終了に伴い、助成金の支給が行われる予定です。

### 2-2. 組織運営

#### (1)理事会

中間支援組織のあり方を、通年のテーマとして、理事会で話し合います。また、その内容を色々なアプローチの仕方で会員に伝え、より広く、議論の場を作り出します。

経営会議より上がった議案を検討し承認します。

#### (2)経営会議

事業の進捗状況、会計状況を確認し、協議する場とします。

前年度対比で事業予算の倍増となっているので、厳密な事業進捗管理を出来る体制を構築します。

#### (3)事業進捗会議

各企画ミーティングで挙げた内容を検討し、事業全体の方向性や人員配置などの詳細を検討します。

#### (4)プロジェクト会議

各企画でミーティングを行い、事業の計画や実施について協議します。

#### (5)全体コーディネーター会議

各企画、各部署の事業概要を共有し、情報交換します。

#### (6)事務局運営

各事業ごとの事務局業務の確立、経理会計管理、勤務管理、情報共有の体制を整備します

#### (7)職員の育成

2010年度も、実習型雇用制度の活用で、CoCoTの根幹を担うコーディネーターを育成します

#### (8)職員の採用

2010年度も、ふるさと雇用再生特別基金事業・緊急雇用創出事業の受託により、10名以上の職員の採用を予定しています。

#### (9)会員の拡大

入会金や会費を負担の小さい金額にし、より関わりやすい環境を作ります。